

# かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2022 | Vol. 91  
WINTER

**特集** 第九管区海上保安本部 七尾海上保安部 能登海上保安署

## 地域と繋がり、 海に暮らす人の命を守る

保安署



海のもしもは  
118番



能登海上保安署

海上保安庁  
JAPAN COAST GUARD

# かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **91**  
2022 WINTER

## PHOTO GRAVURE

- 1 無操縦者航空機運用開始 初フライト
- 1 海上自衛隊との不審船共同対処訓練
- 2 海上保安庁の国際連携
- 3 静岡県清水港において給水支援
- 3 海を照らして154年 11月1日は灯台記念日

[特集] 第九管区海上保安本部 七尾海上保安部 能登海上保安署

## 4 地域と繋がり、 海に暮らす人の命を守る

- 10 海上保安庁音楽隊  
第28回定期演奏会開催！

## 12 NEWS FLASH

裏表紙

## INFORMATION

第23回 未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール  
灯台絵画コンテスト 2022



次号特集  
お楽しみに！



## 無操縦者航空機運用開始 初フライト

令和4年10月19日、海上自衛隊八戸飛行場において、海上保安庁初の無操縦者航空機（シーガーディアン）の運用が開始されました。  
高い監視能力と現場の状況をリアルタイムで共有できるのが同機の強みであり、我が国周辺海域の海洋監視や海難対応、災害対応を含めた海上保安業務全般に効果的に活用していきます。  
今年度は1機体制での運用を行いながら、運用指揮や情報処理に係る海上保安官の養成を行い、令和5年度からは複数機体制としてさらなる海洋監視体制の強化を目指します。



令和4年10月12日 第八管区海上保安本部（若狭湾）



## 海上自衛隊との 不審船共同対処訓練

令和4年10月、海上保安庁及び海上自衛隊の船舶・航空機が、不審船に係る共同対処訓練を行いました。  
この訓練は平成11年に策定された「不審船に係る共同対処マニュアル」に基づいたもので、同年から訓練を重ねているものです。



令和4年10月13日 第二管区海上保安本部（秋田沖）



令和4年10月19日 第七管区海上保安本部（九州西方海域）

## アジア海上保安機関長官級会合

●令和4年10月14日から10月18日 インド



開会の挨拶（白石海上保安監）



アジア長官級会合各国団長

コロナ禍以降、3年振りの対面での開催となり、海上保安庁から白石昌己海上保安監が出席しました。会合では、「搜索救助」、「海洋環境保全」、「海上不法活動の予防・取締り」及び「人材育成」の4分野について、アジア地域における国際連携強化策等が話し合われました。

## 日米連携によるフィリピンコーストガードに対する能力向上支援

●令和4年10月23日から11月5日 フィリピン

「海上保安庁モバイルコーポレーションチーム (MCT)」5名を JICA の枠組みで派遣し、米国沿岸警備隊 (USCG) と連携した能力向上支援を行いました。

MCT が実施した「えい航訓練」及び「搭載艇揚降訓練」では、日本が供与した 97m 型の大型巡視船が用いられました。



MCT 隊員による訓練説明



巡視船によるえい航訓練

## CGGSオンラインシンポジウム

●令和4年11月29日



シンポジウム登壇者



開会の挨拶（勝山総務部長）

世界海上保安機関長官級会合 (CGGS: Coast Guard Global Summit) の関連イベントとして、「CGGS のネットワークの維持、活性化とその活用に向けて」をテーマとしたオンラインシンポジウムを日本財団と共催しました。

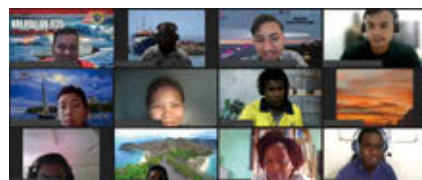
## 3年ぶり50回目の開催！海図作製技術コースの本邦研修

●令和4年10月3日から令和5年4月28日 オンライン、東京ほか

独立行政法人国際協力機構 (JICA) と協力し、開発途上国で水路測量に従事する技術者を対象とした海図作製能力向上のための研修を開始しました。

前半は、オンラインでの研修を受講。後半は、測量船での洋上実習や1カ月間の大分県別府港での測量実習を受講し、前半の研修で得た理論や知識を実際の測量現場で実践することにより必要な技術の習得を図ります。本研修を修了した研修生には、水路測量国際 B 級資格が与えられます。

今年で 50 回目の開催となり、これまでに 44 カ国から 442 名の修了生を輩出し、開発途上の能力向上に貢献しています。



オンライン研修の様子



オンライン研修で講義を行う海上保安庁職員





## 静岡県清水港において給水支援

令和4年9月24日、台風15号に伴う豪雨のため静岡県静岡市清水区内ほぼ全域で断水が発生しました。  
 第三管区海上保安本部と清水海上保安部は、静岡県清水港において同年9月24日から9月30日まで延べ9隻の巡視船を派遣し、給水支援（2,776件、185.6トン）を行いました。  
 今後も様々な自然災害に際し、当庁の機動力を生かした積極的な支援を行っていきます。



利用者からの意見を参考にしながら、ドライブスルー方式で当庁職員が給水・車への積み込みを実施しました。利用者からの意見を反映した給水方式は、「時間が短くて良い」「水が重たいので車へ積み込んでくれるのは助かる」など、好評でした。



## 海を照らして154年 11月1日は灯台記念日

我が国初の洋式灯台である「観音崎灯台」（神奈川県）の起工日（1868年11月1日）に因んで11月1日を「灯台記念日」と定め、今年で154年目を迎えました。  
 灯台は、船舶の安全な航行にとって必要不可欠な施設であるとともに、最近では灯台の美しさや歴史的価値から観光資源としても着目されています。  
 海上保安庁では、地方公共団体等と連携するなどし、10月から12月にかけて全国各地で灯台の一般公開や各種施設で様々なイベントを行いました。



御前崎灯台一般公開



野間崎灯台プロジェクションマッピング



パネル等展示会



# 地域と繋がり、 海に暮らす人の命を守る

豊かな漁場に恵まれ、古くから漁業が盛んな奥能登の海  
小さな漁船で一人操業する高齢漁師も多く、思わぬ海への転落が致命的となるケースも少なくない  
「助かる命を助けたい」

海に生きる漁師の最後の“命綱”として、能登海上保安署はライフロープの普及に努めている

取材・文／中島 敦（オンサイト）



日本海に突き出た能登半島、その東端に近い能登町、九十九湾の奥まった入江の小木港に能登海上保安署はある。陸上職員5名と船艇職員10名の計15名が、珠洲市と能登町の沿岸を受け持っている。

半島先端部に位置する珠洲市と能登町は奥能登と呼ばれる地域で、複雑に入り組んだ海岸線は、北側は日本海に、南側は富山湾に面し、それぞれに異なる表情を見せる。漁業資源に恵まれていることもあって漁業者は多く、小さな湾にはどこも漁船が停泊しているが、ほとんどは5トンに満たない小型漁船で、多くは高齢の漁師が単独で海に出て漁を営んでいるものだ。

## 命を守るライフロープの普及を

比較的事件や事故の少ないこの地域で能登海上保安署が積極的に取り組んでいるのが、海に転落した漁業者を守るライフロープの普及だ。単独で漁船に乗り込み一人漁を行う時、万が一、海中に転落したら誰も引き上げてくれる者はおらず、自力で船に戻ることは難しい。そんな時、例えば簡易的な物でも縄梯子なわはしこがあればそこに手を掛け、足を掛けて船に這い上げられる可能性は飛躍的に高くなる。

能登海上保安署は既に10年ほど前からライフロープ普及活動を行っており、一時は新聞報道されるなど話題を集め普及も進んでいた。ただ、「一旦普及が落ち着くとその後は「私は落ちないから大丈夫」、





第九管区海上保安本部  
七尾海上保安部 能登海上保安署

署長 **中濱 敏彦**

民間のトロール漁船で通信士を務めた後に海上保安庁へ。通信士、国際取締官、本部勤務等を経て令和3年3月より現職に就く。「ベーリング海で操業中に若い乗組員が右肩から下の腕をロープに巻かれた事故があり、大時化の中をアメリカのコストガードに救助された経験があります。生命の危機に晒されたときに頼りになる存在を意識し、次の仕事として海上保安庁を選びました。厳しい事故・事案にも直面してきましたが、この私の経験が次の世代の糧になればと願っています」


「設置が面倒」といった声と共に、次第にライフロープを設置しない船が散見されるようになっていた。

能登海上保安署でライフロープ普及活動を推進する藤原誠警務官は「2021年に能登海上保安署に着任した際に管内の事故を分析して感じたのは、一人乗り漁船からの転落事故が想像していた以上に多いということでした」と語る。2016年から2020年までの5年間で6件の転落事故が発生し、そのうち5名が命を落としていた。高齢者による単独の漁が漁業の大半を占める地域性を考慮すれば、この数字を小さく、さらに言えばゼロにしていけることは喫緊の課題と言える。


改めてライフロープ普及活動を進めるにあたり藤原警務官が考えたのは、従来の縄梯子型のライフロープよりも手軽に用意できる簡易版のライフロープだ。1本の縄に手や足を掛ける輪を作るだけのシンプルなものだが縄梯子型よりも簡単に編むことができ、ロープも短くて済むため安価だ。一度はライフロープを設置したものの古くなったから外してしまうとか、ライフロープを用意するのは煩わしいしお金も掛かると消極的な漁業者にも、より手軽に用意してもらえようという配慮だ。

それでも40年も50年も海に出てきたベテラン漁師の中には「今さらそんなもの必要ない」とライフロープに関心を示さない





漁港を周って地元漁師にライフロープの作り方を指導する。手足を掛ける輪を作るだけの簡単な作りだが、この1本のロープがもしもの時に漁師を救う最後の命綱となることも。



若手職員が集まったのミーティング。フットワーク軽く会議ができるのは規模の小さい保安署のメリット。積極的な意見交換を通じて情報や意識が共有され、結束も強まる。





「転落事故では救命胴衣を着用していても亡くなった方がいます」と藤原誠警務官。「特に冬場は時間との勝負になります」とライフロープの重要性を語る。

人も多い。能登海上保安署では地域の漁港を回って定期的にライフロープ講習会を開いたり、時には実際に署員が海中に飛び込みライフロープを使って復船する様子を実演するなど啓蒙活動を続けている。また、安全指導などで漁船に出向く際にも必ず車にライフロープを用意しておき、「ライフロープをご存じですか？設置していますか？」と呼び掛けを行っている。

「昨年は3カ所の漁港で講習会を行いました。海上保安官が実際に海に飛び込んで這い上がる様子を見てもらうと皆さん目付きが真剣になりますし、講習会が終わった後に「もう少し詳しく教えて欲しい」

「と声を掛けられることもありまして」と藤原警務官は言う。「皆さん、若い頃のイメージでそのまま漁を続けていると思いますが、歳を取れば体力は落ちます。ライフロープなしで船に這い上がるのがどれだけ難しいのかを、しっかりと認識してもらえればと思います。私がここに着任してからは、たまたま転落による死亡事故は発生していませんが、今後も二度と起こって欲しくない。そのためには、どうすれば頑固な漁師さんたちがライフロープを設置してくれるのかに日々頭を悩ませています」

### 地域との連携が広げる安心と安全

能登海上保安署はライフロープの普及を進めるにあたり、3つの施策に着手している。

「いわゆる、3本の矢」として、ひとつは講習会の実施、もうひとつはYouTubeでの動画配信、そしてライフロープ推進モデル漁協支所の看板を対象となる漁協支所の玄関前に掲示しています」と藤原警務官は説明する。講習会の実施には地元漁協との連携が不可欠だが、ライフロープの必要性を意識した漁協担当者が「できるだけ多くの漁師を集めます」と積極的に働き掛けてくれたこともあって、2021年に実施した3カ所の講習会では合計85人の漁師が参加した。ライフロープに無関心な漁師が多い中でより多くの参加者を集めるには、このように顔

の見える繋がりの中で声掛けが広がるのが大切だ。また、漁港によってライフロープの設置率が大きく異なることから、地域のネットワークが持つ影響の大きさが伺える。設置率の高い漁港では既に9割方ライフロープの普及が進んでおり、そういった状況を目に見える形でアピールするためにも、その漁港を所管する漁協支所を「ライフロープ推進モデル漁協支所」に指定し、看板を掲示しているのだ。

地域と連携し協力しあうことが、そこで生活する人々の安心と安全に繋がっていく。能登海上保安署では地域の小中学校で環境教室や安全講習会、職場体験等を実施しているが、それ以前に日頃から地元の人が署員に気軽に声を掛けたり、保安署を訪れやすい環境が整っている。顔を合わせれば「今日はいい天気だね」とか「前にいたあの人はどこに異動したの？」と地域の人から署員に声が掛かり、また、要件があれば電話だけで済ませずに打合せに来署する学校職員も多いという。

この、地域との連携の大切さを中濱敏彦署長は強調する。

「職場体験や安全講習会といった依頼は常に入ってきます。毎年、夏休み前になると学校から安全講習会の依頼が入りますし、一方で事案発生の際、地理的に保安署から遠い時には民間のボランティア救助組織である水難救済会に協力を仰ぐこと

もありません。近年は「コロナの影響で実施できずにはいますが、通常は年に1回訓練も実施しています」という。

とはいえ、このような関係は「朝夕に築けるものではない。これまでの年月で培われてきた地元との関係は当然ながら、職員が日々心掛けていっているのが何気ない声掛けだ。

「コミュニケーションはまず、普段から声を掛け、話をするところから始まると思っています」と中濱署長。「署員には必ず、巡回に出て誰かに会ったら、必ず声を掛け会話するよう指導しています。そこから我々の存在が認知され、何かあれば「これを教えてくれ」とか「こんなことでいいか？」と声が掛かるようになる。署員たちもそこを理解して、いつも積極的に声を掛けています」

庶務を担当する久根下颯太署員はイベント等で地域住民と顔を合わせる機会も多いが、「コロナ禍で学校を訪れてのイベントを開催できない中、地元高校からの依頼でオンラインによる業務紹介を実施したという。「学校から「オンラインでできないか？」と投げ掛けられたのがきっかけです」と久根下署員。「他にも「こういふことを能登海上保安署も一緒にできませんか？」と相談が来たり、頻繁に外からお声掛けいただいています。自分がここにきて2年ですが、地域との連携は強いと思います。「コロナが治まってきたら、学校に出向いての業務紹介なども積極的に再





穏やかな小木港に停泊する巡視艇おぎかぜ。365日24時間、地域の海の安全を守っている。

開していきたいですね」

### 若い職員を育て、送り出すために

取材した2日間で印象的だったのは、能登海上保安署での執務室の雰囲気だ。署員の集合写真撮影にあたり、誰かから「撮影するならメッセージボードを用意したい」という声が上がると、すぐさまどんなメッセージがいいか？と数名が集まってのやりとりが始まった。出来上がったものを署長に確認し、そのまま印刷してあつという間に手製のメッセージボードの出来上がりだ。和気あいあいと軽いフットワークで業務に取り組む若い職員の様子は、日頃の署内の雰囲気を感じさせるものだった。実際、署長室のドアは開かれ、オープンな雰囲気、署内全体に広がっていた。

「保安署には若い職員が集まりますが、中堅の役職がいまません。そのような環境の中で私がいちばん大切だと意識しているのは、何か報告や相談があったときに、例えば私の考えと違うからといって頭ごなしにダメとは言わないことです」と中濱署長は語る。「まずは最後まで話を聞き、否定的な言葉を返すのではなく「ならばここはこうしたらどうだろう？」と方向を示し、自らが考え、納得して理解し取り組めるよう指導しています。年齢も階級も上の人間に対しては、どうしても若い職員は緊張しがちになる。そこをほぐすためにも小まめに執務室に行く「ミニミニ



出航前のブリーフィング風景。その日しよう戒るコースや目的、気象状況などを確認の上、出航準備に取り掛かる。

ケーションを取ることで「あ、この人とはこうやって話をしてもいいんだ」と感じてもらわなければなりません。彼らの多くは大型の巡視船で個々の担当業務をこなす経験を積んでいますが、規模の小さい保安署では業務内容はまったく異なります。経験値もなく緊張するのは当然ですから、まずは経験させることが肝心。当たり前の話ですが署内では私は誰よりも経験が長いし知っていることも多い。けれどその分、冷や汗をかいたことも多い。その経験を折に触れ彼らに語り、常に問題意識を持たせることで、私の経験が彼らの糧になればと思っています。この保安署を巣立つとき、よちよち歩きだった彼らが立派に育って他へ羽ばたいてくれればというのが私の想いです」



## interview

### 「臨時船長として責任の重さを感じています」

■巡視艇おぎかぜ航海士補 麻生 翼 (30歳)

おぎかぜは20メートル型の巡視艇で365日24時間出航できる体制を整えるため、本来の乗組員数よりも多い人数が交代で乗船していますが、船長が不在となるときは私が臨時の船長として乗船することとなります。

平成28年3月に海上保安学校を卒業した後、巡視船艇3隻の乗船勤務を経て、1年半前に巡視艇おぎかぜに着任しました。経験年数的に、そろそろ小型巡視艇の臨時船長になる頃合いだとは思っていました。操船そのものへの不安とクルーを率い彼らの命を守るという緊張感、その両方がありました。クルーとして自分の役割を果たしていた大型船勤務とは異なり、おぎかぜでは自分の判断で船の進路を決め、かつ、臨時とはいえトップに立ってクルーの命を預かる存在です。自分の判断ミスによっては危険な状況に陥る可能性もあるわけで、そういう意味で大変緊張しました。

1年半の経験で不安は減りました。海の状態を見て「行くか行かないか」を判断するときも、ある程度自分の実力や操船技術が分かっているので早めに判断できるようになりました。そこは成長した

と感じています。

それでも、やはり初心を忘れないよう心掛けています。事案対応した後は気が抜けやすく、早く入港した

いという気持ちも出てきますが、普段と違う動きや判断は事故に繋がる危険があります。焦らず基本に忠実に。事故を起こして帰りが遅くなるよりも、慌てずに帰った方が結局は早いと思います。

沖合でエンジンの故障により動けなくなった船を救助したことや、風で港に戻れなくなったボートをえい航して戻ったこともあります。海上で他船に横付けしてえい航するのは神経を使いますし、家に帰って落ち着くとドッと疲れが出ることもあります。それだけ達成感もありますし、そういうときの夕飯は格別にうまいと感じます。



### 「幅広い業務に積極的に取り組んでいきたい」

■署員 久根下 颯太 (26歳)

地域の小中学校を対象に、環境教室、安全講習会、職場体験等を担当しています。小さい頃から海の世界について考える機会を持ってもらいたいですし、海上保安業務を知ってもらうことで、将来の職業として海上保安官を選んでもらうことも大切です。

職場体験を実施すると後日、生徒の感想をいただくこともあり、「楽しかった」とか「こんな業務も体験してみたい」と嬉しい声が届きます。地元のイベントにブースを出したときも「海上保安署の講習でうちの子供が海上保安庁のことを知った」と親御さんから声を掛けていただいたこともありました。私が着任する前から続いていたことでもありますが、能登海上保安署は地域の小中学校からも連絡しやすい環境が整っていると感じています。こちらに着任してすぐのことですが、高校からの依頼でオンラインで業務紹介したこともあり、その時の生徒の1名は今、海上保安官を目指していると聞いています。

ここに来る前は船に乗って警備救難業務に携わっていたのですが、突然陸上の事務仕事になり、初めての業務で分からない

ことばかりで不安な気持ちもありました。でも最近は慣れてきましたし、やってみたらこっちの方が自分に合っているかもしれないと思うようになってきました。要は何でも毛嫌いすることなく、積極的に取り組んでみようという気持ちです。

この先、どういう部署でどういう仕事をするにしても、同僚や部下から信頼される、何かを聞かれた時には何でも答えられるような豊富な知識を備えた海上保安官になりたいです。



### 「健康増進推進官として署員の健康に気を配る」

■巡視艇おぎかぜ航海士補 濱出 翔大 (21歳)

高校を卒業して海上保安学校に入り、新潟海上保安部の巡視船「ひだ」に2年乗ってこの4月に能登海上保安署にきました。地元の珠洲市出身です。実家の目の前が海で幼い頃から海に親しんで育きました。

通常の業務とは別に、「健康増進推進官」として能登海上保安署職員の健康増進に気を配っています。練習時間を作ってみんなでマラソン大会に出場したり、健康を意識したお弁当作りを勧めたり。保安署の近くには飲食店がないので、放っておくとカップラーメンばかりになりがちなんです。声を掛ければ皆さん、快く対応してくれます。これからの時期は冬で寒さが厳しくなるのでヒートショックに気を付けてもらうよう、どうやって皆に注意喚起しようか思案中です。

新潟にいた時のことですが、佐渡沖でエンジントラブルで動けずいた漁船をえい航救助したことがあります。

漁師さんが「あんた達が来てくれてよかったわあ。命の恩人だわ」と声を掛けてくれ、この仕事に就いて良かったと実感しました。まだまだこれから幅広い業務を経験して自分のやりたい業務、自分に向いている業務を探すことになります。まずは色々な部署で経験を積んで、これだというものを見つけていきたいですね。







## 海上保安庁音楽隊

# 第28回定期演奏会開催!

コロナ禍で開催を見合わせてきた海上保安庁音楽隊定期演奏会が、3年ぶりに観客を招いて開催されました。この日を待ち焦がれ会場を訪れた観客の方々に、音楽隊の面々も存分に演奏を楽しむ一夜となりました。

取材・文/中島 敦 (オンサイト)

10月27日、東京芸術劇場で海上保安庁音楽隊第28回定期演奏会が開かれました。平成6年11月の第1回定期演奏会から数えて28回目となる定期演奏会ですが、令和元年以降はコロナ禍のため開催できず、実に3年ぶりに観客を招いての開催となりました。2000人収容の会場にはコロナ禍を配慮して抽選に当選した800名を招待。また、来場いただけない方にも楽しめるようにYouTubeを使つてのライブ配信も実施しました。

「感染対策に配慮し、ご声援は声ではなく拍手でお願いします」というアナウンスの後に開演したプログラムは二部構成で、一部はクラシックを中心に、二部はポップスや映画音楽を中心にエンターテインメント性溢れる演奏が披露されました。

紺色の第2種演奏服に身を包んだ音楽隊員が登場して始まった部は、軽快なマーチの『秋空に』で始まり、2曲目モーツァルトの『アンダンテK.315』では、前隊長であり21年間音楽隊を続けてきた須田雅美隊長がフルートの独奏を披露。演奏後には47年間海上保安庁で努めてきた中での、思い出深い事案や演奏会について語りました。須田隊長にとっては今回が最後の晴れ舞台となりました。

第一部では白色の第2種演奏服に着替え、親しみやすい演歌のメドレーやテレビドラマ『DCU』のメインテーマなどを中心に演奏。ソロパートではそれぞれが立ち上がり演奏するなど、楽しく盛り上がるステージとなりました。

また、和田隆徳隊長による海上保安庁の業務紹介もあり、自己救命策3つの基本を観客にPR。救命胴衣や緊急時の連絡手段確保の大切さを訴え、緊急通報用電話番号118番についてクイズ形式で出題しましたが、この日訪れていた観客の方々は全員がしっかりご存じでした。

アンコールで2曲を披露し、最後は打楽器奏者が音頭を取って観客全員が手拍子を打ち、盛り上がった雰囲気の中でステージは終了しました。





会場にはポスターやパンフレットを展示して、訪れた方々に海上保安業務や海上保安大学校・学校を紹介しました。



今回の定期演奏会では初めて電子チケットを採用。エントランスには職員も待機し、来場者のスマホをチェックレススムーズな受け入れに務めました。



モーツァルトの『アンダンテK.315』では、47年海上保安業務に尽くした須田前隊長によるフルートの独奏が披露されました。



演奏の途中、自己救命策3つの基本をPR。緊急通報用電話番号の118番をクイズ形式で紹介しました。

## 海上保安庁音楽隊 第28回定期演奏会 演奏曲目

### <I部>

行進曲『秋空に』  
アンダンテ K.315  
素晴らしき3つの冒険

### <II部>

オーメンズ・オブ・ラブ  
ムーンライト・セレナーデ  
伝説の『演歌』メドレー  
DCU メインテーマ  
ジュラシックパーク・サウンドトラック・ハイライト

### <アンコール>

『LIMIT OF LOVE・海猿』より  
『海猿』のテーマ  
行進曲『サーカス・ビー』



指揮者

海上保安庁音楽隊技術顧問

荒井 弘太

## 「ひとりでも多くの方に素晴らしい音楽を届けたい」

「隊員は通常業務と兼務ですから、皆さん仕事がある中で最大限に努力してくれているのが素晴らしいと思います。音楽のキャリアはそれぞれで、学生のときから続けてきた人もいれば、ほとんど音楽に関わってこなかった人もいます。その音楽隊をまとめ、長い目で見てどうやって音楽を仕上げていくのか、日頃からそこを思案しています。今回の定期演奏会、皆さんの努力もあっていい演奏会ができました。開演前のウォーミングアップで出てくる音が良かったので「これはいいぞ」と手ごたえを感じていましたし、須田前隊長のソロ、そして伴奏も素晴らしかった。音楽には力があります。その場の空気や雰囲気を作り出し、人の心を鼓舞する力もあります。もっと多くの方に、ぜひ海上保安庁音楽隊のことを知っていただきたいですし、色々な所で演奏していきたい。もちろん演奏させてもらう以上は皆さんに納得いただける、しっかりとした演奏で楽しんでもらえればと思っています」



海上保安庁音楽隊長

和田 隆徳

## 「観客の笑顔、隊員の笑顔を見るのが何よりも楽しいです」

「須田前隊長から引き継いで、今年の4月から隊長を務めています。演奏会のない時期は週に2回程度、演奏会の前には平日は毎日午前中に練習し、そこから各自職場で通常業務を行っています。「次はこんな曲をやりたい、聞きたい」という隊員や職員の声を聞き、荒井先生と相談して難易度等含めて検討して演奏曲を決める。隊長といっても要は調整役で、音楽のことに限らずプライベートな相談も結構受けています。3年ぶりに有観客での定期演奏会を開くことができましたが、有観客か無観客か、とても難しい判断でした。8月下旬にようやく開催が決まり、9月から観客を公募して、後は突っ走るだけでした。演奏会で観客の方々の笑顔を見るのはもちろんですが、演奏を終えて笑顔になっている隊員の顔を見るのもとても嬉しいです」

## 海上保安庁音楽隊



海上保安庁音楽隊は昭和63年の発足以来、「海上保安庁観閲式及び総合訓練」といった当庁主催の式典や演奏会、「大喪の礼」、「即位の礼」など国家的行事での奏楽、及び国土交通省関係にイベントにおいて、「音楽の演奏を通じて国民との融和を図り、海上保安庁の広報活動の効果を高めるとともに、当庁職員の士気高揚を図ること」を目的に活動を行っています。



海上保安庁  
音楽隊  
ホームページ



海上保安庁  
YouTube  
海上保安庁音楽隊



# NEWS FLASH



9月13日 大学校

大学校 インド沿岸警備隊長官来校



9月

上杉謙信・直江兼続バージョン

©JCGF



9月15日 本部

十一管区 沖縄科学技術大学院大学 (OIST) へ長官感謝状贈呈  
~多年にわたり海洋情報業務に貢献~



9月25日

学校

保安学校  
船舶運航システム課程  
第60期卒業式



9月26日 根室保安部

一管区 巡視船さろま解役式



9月30日 仙台基地

二管区 機動救難服貸与式

当行初

オリンピックメダリストとコラボ!!

第五管区海上保安本部では、兵庫県神戸市出身で北京五輪銅メダリストであるフィギュアスケートの坂本花織選手とコラボしたポスターを作製しました。



大海原で花咲かそう!



海上保安庁 第五管区  
JAPAN COAST GUARD 海上保安本部







10月15日  
八管区  
2022  
ブルーフェスタ

桃太郎  
バージョン



©JCGF



10月18-19日 新潟基地  
九管区  
行って来い!! 新潟航空基地  
新人機動救難士 100km行軍



10月1日 下田保安部  
三管区  
マリンフェスタ in 伊東マリンタウン2022  
~伊東MPS開所20周年ミニイベント実施~



10月23日  
十管区  
八代保安署  
みなと八代  
フェスティバル



10月15日  
学校  
保安学校  
船船運航システム課程  
第62期入学式



10月30日  
七管区  
北九州基地  
機動救難士発足20周年  
記念式典



10月17日  
六管区  
本部・宇和島保安部  
宇和島市への  
3D海図贈呈



11月25日  
十一管区  
本部  
沖縄治安懇談会の開催  
〜巡視船つるま訓練見学〜



11月6日  
四管区  
四日市保安部  
巡視艇あおたきによる  
体験航海(四日市海洋少年団)



金のしゃちほこバージョン



©JCGF



# 未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール

第23回

特別賞

(国土交通大臣賞)

小学生低学年の部

宮城県 美里町立不動堂小学校

3年生 新田 芽以さん



海上保安庁  
長官賞



小学生低学年の部

神奈川県 横須賀市立高坂小学校

2年生 河野 壮真さん



小学生高学年の部

広島県 東広島市立三ツ城小学校

6年生 横田 梨乃さん



中学生の部

愛知県 西尾市立平坂中学校

3年生 森 友里香さん

海上保安協会  
会長賞

中学生の部

福島県 浅川町立浅川中学校

3年生 日下野 杏美さん



小学生高学年の部

宮城県 美里町立不動堂小学校

5年生 新田 結以さん



小学生低学年の部

沖縄県 うるま市立高江洲小学校

3年生 仲村 千紗さん



## 灯台絵画コンテスト 2022



国土交通大臣賞

題名『みれたよ、灯台！』

徳島県 徳島市国府小学校

4年生 青木 勇麻さん



海上保安庁長官賞

題名『清虚の意志を継いで』

福岡県 北九州市立洞北中学校

3年生 久保田 凜さん



燈光会会長賞

題名『広い空と犬ぼうさき灯台』

千葉県 銚子市立双葉小学校

3年生 鈴木 佑梨衣さん

主催：公益社団法人 灯光会 後援：海上保安庁